

質 問 書

武庫川流域委員会

松本 誠委員長殿

平成17年2月28日

委員 谷田百合子

県から提出された資料について、下記の質問を致します。

- 1、第8回流域委員会の資料-4、P16、下段 3.2.2 計画降雨継続時間の設定
統計期間 46年（昭和31年～平成13年）では、総雨量60mm以上が母集団として集計されています。洪水総数は105、継続時間24時間以内は、69洪水24時間が設定されました。しかし、第13回流域委員会、資料2-4では24時間雨量が概ね100mm以上の降雨が対象とされています。100mm以上を対象とした時には降雨継続時間の統計学的確率はどうなるのですか？
スケールを変更された理由をお示してください。
- 2、平成8年8月に上流、篠山市に降った局地的降雨は三田市では降っていません。この雨の降った面積は推定でどのくらいだったのですか？ 流域面積500Km²に対してどのくらいの割合までが局地的なのか説明してください。
1/500確率相当雨量なので、棄却基準とされましたが何故ですか？
100年確率の雨量を設定するのに、実績雨量が500年確率であっても短時間、局地的との理由で棄却されています。そんな値が採用されるのは何故ですか？
- 3、ガンベル分布について、
46年間、各年の最大雨量が母集団として統計処理されています。しかしこの期間の洪水の基本高水ピーク流量の算定には（ガンベル分布で対象とされた洪水ではなく）洪水雨量の大きなものが用いられています。つまり母集団が異なるのです。実績最大値をとるのならば、確率統計学など必要ではありません。
確率統計学の手法を採用するのならばその意味を明確に説明してください。

以上